

## へき地・複式校における教師を対象とした

### 総合的な学習の時間の意識調査

#### —青森県中南地区の現状と課題—

渋川 良夫 平賀町立葛川小学校

#### 要 旨

総合的な学習の時間についての中南地区のへき地・複式校に勤務する教師の意識調査結果から、ほとんどの学校では、地域や郷土の特色を生かした活動を行っていることが明らかになった。また、多くの学校が「時間、人材、物的な面」や「指導について」等の実践上の問題点を挙げていた。こうした問題点を解決するために、教師や地域との協力や連携を密にしたり、学習形態を変えることで個に応じた指導を行う等の工夫をしていた。総合的な学習の時間以外の教科の時間などでは、「複式について」「教科の指導」について問題点等として挙げられていた。

へき地・複式校では、総合的な学習の時間を実施するにあたって学校と家庭、学校と地域との連携が重要であり、また、総合的な学習の時間と教科等の学習との関連を図りながら取り組む必要が認められた。

【キーワード】 総合的な学習の時間    へき地・複式    教師の意識

#### 1 はじめに

文部科学省が平成15年度に実施した学校教育に関する意識調査によると、小学5年生と中学2年生で「総合的な学習の時間が好き」と答えた割合は小学5年生で約90%、中学2年生では約80%と、小中学生は、総合的な学習の時間を肯定的に受け止めているようである。また、社団法人日本PTA全国協議会が昨年実施した学校教育改革についての保護者の意識調査では、「総合的な学習の時間はよい」と答えた割合は47%、「どちらともいえない」が40%で、保護者に十分な理解が得られていない結果が示された<sup>1)</sup>。

さらに、文部科学省の同調査によると教師を対象にした「総合的な学習の時間」の実践上の問題点では、小学校において割合の高かった項目は、「教員の打ち合わせ時間の確保」が69%で最も高く、次いで「体験的な活動等の実施のための経費」が50.1%、「学年全体を見通した発展性や系統性の構築」が49.9%であった。

青森県中南地区の小学校の教師を対象とした意識調査<sup>2)</sup>では、教師は総合的な学習の時間（以下総合的な学習）を好意的に捉えていた。しかし、へき地・複式校8校とへき地・複式校以外の学校59校とは、アンケート結果に違いが見られた。実践上の困難な点として、へき地・複式校では「人材の確保」や「学校設備の不備」などを、へき地・複式校以外では「活動予算の確保」を挙げる教師が多かった。

本研究では、中南地区のへき地・複式校における総合的な学習の時間の取り組みについて、その実態や教師の意識を明らかにすることで、へき地・複式校における総合的な学習の時間の現状と課題を検討する。先に挙げた教師を対象とした意識調査による研究の方法は、主として多肢選択法ならびに評定法を用いるものであり、へき地・複式校もそれ以外の学校も同様の質問内容によっていた。それにより得られる結果は、両校の大まかな違いを映し出すことに適しているが、具体的な実態や詳細な意識までを捉えるものではなかった。そこで、本研究においては、へき地・複式校の総合的な学習の時間における具体的な

実態や詳細な意識を明らかにするために、自由記述調査を行うこととした。

## 2 調査と分析の方法

調査は2004年12月上旬から下旬にかけて質問紙郵送留置法によって行った。質問紙を、中南地区のへき地・複式校10校に学級数を考慮しながら校長宛で1～4部ずつ配布し、学級担任者を中心に回答をお願いした。回収部数は23部であり、回収率は全体で100%であった。回答者の年代は、20代3名（全回答者に対する割合13.0%以下同じ）、30代10名（43.5%）、40代9名（39.1%）、50代1名（4.4%）。経験年数では、10年以下8名（34.8%）、11年以上20年未満11名（47.8%）、20年以上4名（17.4%）。職名では教諭21名（91.3%）、講師2名（8.7%）であった。

質問項目は、すべて自由記述で回答を求めた。その内容は、「総合的な学習の時間の内容と日程」「総合的な学習の時間で苦勞していること」「苦勞していることを解決するために工夫していること」「総合的な学習の時間以外の教科の時間で苦勞していること」ことの4項目である。（資料1）

自由記述データの分析については、質問項目ごとに類似の記述を整理し、分類を作成した上で、回答内容の検討を行った。

## 3 結果と考察

### 3-1 総合的な学習の時間についての内容と日程

表1 「総合的な学習の時間の内容と日程」

< >内は記入数

項 目	内 容	日 程
国際理解<8>	・国際交流 <3> ・英語で話そう、英会話を楽しもう <5>	5月<1> 2月<1> 1～3月<1> 5月<1> 10月<1> 11月<1> 9月～12月<1> 2月<1> 通年<1>
情報<5>	・コンピュータの学習 <2> ・パソコンでつくろう <1> ・思い出のアルバムづくり <2>	通年<1> 11月～1月<1> 9月・1月<1> 4月～7月<1> 1月～3月<1>
地域・郷土 <20>	・米づくり <3> ・りんご体験学習 <3> ・学校園の野菜づくり<5>  ・村をPRしよう（マップ）<2> ・ねぶた作り（ねぶた絵）<2> ・伝統工芸に触れる<2> 作品づくり アケビ細工 こぎん 津軽凧 津軽塗り ・登山囃子<1> ・広船の伝統や文化<1> ・平賀町・青森県のいいところを調べる<1>	5月～11月<1> 6月～10月<1> 5月～11月<1> 4～10月<1> 4月～11月<2> 4～9月<1> 5～12月<1> 7月<1> 7月<1> 4月～9月<1> 9月～12月<1>  4月～8月<1> 4月～7月<1>
環境・自然 <6>	・もっと知りたい岩木川<1> ・雪まつり・かまくら作り<3> ・植物採集をしよう バードウォッチング 蝶を採集しよう<1>	4月～12月<1> 2月<1> 6月～7月<1>

環境・自然	・森林学習<1> ・自然についてのテーマ学習<2>	6月～2月<1> 5月～11月<2>
福祉<4>	・車いす体験<1> 障害者擬似体験 点字について ユニバーサルデザイン ・老人ホーム訪問（まごころケア）<3>	8月～12月<1>  11月<2> 10月<1>
児童の興味・関心 <3>	・修学旅行、学習発表会 <1> ・〇〇博士（国語との関連）<1>	5・6月<1> 10月<1> 9月～11月<1>
その他<3>	・養護学校との交流会<1> ・わくわくドキドキ探検隊<1> ・夢について<1>	9月～10月<1> 4月～12月<1> 1月～3月<1>

表1から、各学校の総合的な学習の時間の内容や日程をみると、「国際理解」では国際交流において3つの学校で総合に取り入れている。アメリカのメイン州との交流をしている平賀町の小学校がある。総合の授業に、「英語で遊ぼう」や「英語で話そう」などALTを講師に招いて英語の授業をしている学校も多い。小学校では、簡単な会話や他の国の文化について触れることに重点を置いている。日程の取り方では、ALTが来校できる日に合わせた日程をとっているところがほとんどである。

「情報」では、コンピュータを使った学習が多いが、コンピュータの基本的な操作から学習をしているところやコンピュータを使って、テーマに基づいて自分史や思い出のアルバムづくりを行っているところがある。日程では、時期を決めているのと通年で行っている学校がある。

「地域・郷土」について各学校の取り組みを見ると、特色ある活動が多い。「米づくり」を行っている学校が3校あり、西目屋小学校では、種もみの塩水選びから稲刈りや脱穀までの一連の活動を行い、精米をしておにぎりパーティーなどを実践している。砂川学習館とも連携した特色ある取り組みが見られ、地域の施設を効果的に利用していることが分かる。米づくりは、田植えから収穫までの一連の体験活動ができる点が利点である<sup>3)</sup>。

「りんご体験学習」にも取り組んでいる学校が3校あった。中南地区にはりんご園が多く、多くの小学校で総合的な学習の時間の中で活用している。修斉小学校では、受粉・摘花・摘果・袋かけ・袋はぎ・りんごもぎ・競りの見学などを体験させるとともに、グループ活動を通して学習をさせ、競りなどの様子を実際に見るなどしている。りんごを収穫した後に、りんご料理を行っている学校もある。

取り組みの学校が多かったのは、「学校園の野菜づくり」で学校にある農園などを利用して野菜等を栽培し収穫していることがわかる。野菜の種類は、ミニトマト、ピーマン、トウモロコシ、さつまいも、じゃがいも、なす等である。ひまわり、へちま、ハウセンカなどの教材として使う花などを学校の教材園に植えている学校も多い。大豆を育てて観察をして生長の記録をつけ、収穫をしてそれを使って「豆腐づくり」を行っている学校もある。自分たちが育てたものから豆腐を作るという体験学習である。

日程では、4月から11月ごろまでと学校に実情にあったものになっている。その他には、「ねぶた作り」、「アケビ細工」、「こぎん」、「津軽凧」、「登山囃子」、「津

軽塗り」など津軽の特色を生かしたものを総合的な学習に取り入れていることがわかる<sup>4)</sup>。これらは、その地域に伝わる伝統的なものであるが、ゲストティーチャーの指導を受けている学校も多い。また、自分の村をPRしようとするものや、自分たちの村のマップ作りに取り組んでいる学校もある。

「環境・自然」では、西目屋小学校の「もっと知りたい岩木川」のように岩木川について、学習している学校がある。日程は4月から12月の長期になっている。内容は、「岩木川の地形」、「水質」、「植物」、「昔の遊びとくらし」と5グループに分かれて課題を追究し、まとめて発表をする活動を行っている。砂川学習館での水生生物の採集や観察を行ったり、岩木川での水生生物の採集や観察と植物採集、国土交通省東北地方整備局青森河川国道事務所河川課の人達による出前講座を行い、地域の人達をゲストティーチャーとして招いて、昔のくらしと遊びを聞いているなどもしている。また、白神山地ビジターセンターでの白神山地や岩木川の地形、植物、動物、くらし、水質についての講義や館内の見学を通して岩木川についての理解を深めている。百沢小学校では、「植物採集」や「蝶の採集」、「バードウォッチング」など岩木山に近い自然を利用した体験活動を行っている。また、児童にテーマを持たせながら自然環境について学習をしている学校もある。

「福祉」では、修斉小学校で「車いす体験」や「障害者擬似体験」などを行っている。これは、児童が実際に車いすに乗ることを通しながら障害者への理解を深める学習を行っている。また、老人ホームを計画的に訪問することを通して、お年寄りとの触れ合いを大切にしている。

「児童の興味・関心」では、学校の行事と結びつけて児童の興味や関心を大切にしながら、学習を進めている記述も見られた。修学旅行や学習発表会などでは、児童の活動に重点を置いている。

「その他」では、養護学校との交流など他学校との交流を通して親睦を図っていることも挙げられる。

### 3-2 総合的な学習の時間の実践上の問題点

表2 総合的な学習の時間での実践上の問題点 < >内は記入数

項 目	大 々 な 点 (苦労している点、悩んでいる点)
調整等について < 3 >	<ul style="list-style-type: none"> <li>・りんご体験学習で、農協の指導員の方に協力してもらっていたが、都合が合わなかったりして、あまり上手に活用できなかった。&lt; 1 &gt;</li> <li>・地域や地域の人材を活用しての活動を多く取り入れているが、学校と指導者校内での授業調整が大変である。&lt; 1 &gt;</li> <li>・関係機関との時間調整が大変である。&lt; 1 &gt;</li> </ul>
時間・人材・物的な 面< 9 >	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉の学習をして、車椅子、擬似体験用具がなく、借用して行った。&lt; 1 &gt;</li> <li>・教材研究の時間が不足している。&lt; 1 &gt;</li> <li>・外での活動が多岐にわたる場合、職員の数が足りない。&lt; 1 &gt;</li> <li>・人数が少なくてそれぞれがやりたいことをやらせてあげることができるが、その準備時間が大変。&lt; 1 &gt;</li> <li>・図書室に資料が少ない。&lt; 1 &gt;</li> <li>・調べる事に関する資料が足りないため、パソコンの情報に頼りがち。&lt; 1 &gt;</li> <li>・見学に行く交通手段が少ないため、体験学習の機会が少ない。&lt; 1 &gt;</li> <li>・資料や施設がままならない。&lt; 1 &gt;</li> <li>・時数的に大変である。&lt; 1 &gt;</li> </ul>

共通理解 ＜１＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体の年計及び意志統一がないこと。学級に自由に任せているのはありがたいが、学校として大まかな方向性をはっきりしないので、各学年で履修した内容が次学年に生かされていくという系統性がない。＜１＞</li> </ul>
指導について ＜４＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に対する支援。一人一人の活動に合わせた適切な指導。＜１＞</li> <li>・児童一人一人の思いに沿うように支援することが難しい。（思いと技量に格差があるため）＜１＞</li> <li>・小学校全体で行う時、同じ内容で同じ展開をしているが、個を生かすことが難しい。＜１＞</li> <li>・３・４年複式のため、細かな支援ができない。＜１＞</li> </ul>
自然条件 ＜４＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候や行事等により、計画的に実施できなかった。＜１＞</li> <li>・土砂崩れのために学校田として借りていた水田が使えなくなった。＜１＞</li> <li>・校外で行う場合、天候によって計画が変更せざるを得ない時がある。＜１＞</li> <li>・作物栽培に取り組んでいる。農業は奥が深く、天候によって収穫の時期が難しい。＜１＞</li> <li>・水田までの距離が遠かったこと。＜１＞</li> </ul>
その他＜１＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べる力、まとめる力を十分育てられずにいる。＜１＞</li> <li>・児童の意欲を削ってしまったこと。＜１＞</li> </ul>

表２から、「総合的な学習の時間での実践上の問題点」を見ると、「時間調整」に問題があることが分かる。これは、外部講師と学校側の時間がうまく調整されなかったことなどが挙げられる。地域の人材を総合的な学習で協力することは、学習を進める上で大変貴重であるとともに地域の関係機関の活用も大切である。へき地・複式校の教師は外部講師との時間調整に苦労していることが分かる。

実践上の問題点で一番多く記述されていたのは、「時間・人材・物的な面での問題」が挙げられる。人材の面では、へき地・複式校の場合、職員数が多くないので、活動範囲が広がる総合的な学習においては、職員の数以上の活動範囲が生じるために不便を感じるものと思われる。時間的な面でも、活動をするための準備にたくさんの時間を使うので、準備のための苦労が多いことがわかる。また、教材研究をする時間も学校の仕事が忙しいために十分に確保できにくいようであり、「教材研究の時間が不足している」と記述している人も見られてる。物的な面では、福祉などの学習に必要な機材は学校に置かれていることは少ないので、関係機関から借用しなければいけない。その場合も、打ち合わせが必要となり労力を要することとなる。表２の中にも、「福祉の学習をして、車椅子、障害者、疑似体験用具がなく、借用して行った。」とあるように必要なものは関係機関から借りなければならないので負担となっている。また、多くの事を体験させたいと思っていても、見学に行く交通手段が少ないために出かけることが容易にできないため、児童の体験する機会を設けられないことも多い。また、テーマに沿って調べる活動も多くなるので文献などが必要となるが、学校の図書室の文献だけでは満たされないことも多い。学校の外にある図書館は、地理的にも近くないので、利用することが困難である。

「共通理解」の面では、学校全体の年間計画や意志統一がないために、学年で学習したことが系統立てられずに、単なる活動に終わってしまっている学校もある。全体計画の作成が必要となろう。

「指導について」が問題点となっているものが４あった。複式学級のために、個に対する支援がしにくいことを挙げている人もいる。人数が少ないとはいえ、２学年を同時に教えていくということは負担になっていると思われる。また、少ない人数の中にも個

人差が見られるので、なかなか思いに沿った支援ができずに苦勞をしている面も見られる。学校全体で行う時、同じ内容で同じ展開をしているが、個を生かすことが難しいことを記述しているものもあり、共通理解を図っていても、少ない人数の中であっても個を生かすことが難しいことを苦勞として挙げている例もある。個を生かすためには、教師側も今まで以上の、さらにきめ細かな支援のありかたを学習し、研鑽を積んでいく必要があるものと思われる。

「自然条件」では、米づくりの計画などを年度初めに計画しても、土砂くずれなどのために学校田が使えなくなるなど、自然が与えている影響も大きいものがある。学校農園などの作物等も、表2に「天候や行事等により、計画的に実施できなかった」と記述されているように、天候に左右され計画通りに行われないことが多く、苦勞していることがわかる。水田までの距離が長くて簡単に生長の様子を観察できない不便さを感じていることなどを挙げている例も見られた。

「その他」では、児童の、調べる力やまとめる力が十分に育てられないことなど、育てたい能力が十分についていないことを挙げている記述も見られている。また、教師が児童の意欲を削ってしまったことなども記述として見られる。

### 3-3 総合的な学習の時間の実践上の問題点を解決するための工夫

表3 総合的な学習の時間の実践上の問題点を解決するための工夫

< 内は記入数

項 目	工 夫 点
時間、人材、物的な面での工夫< 7 >	<ul style="list-style-type: none"> <li>・父兄や地域の人に協力してもらい、連絡を密にして対応している。&lt; 3 &gt;</li> <li>・学級担任以外の教師の協力を得るようにしている。&lt; 1 &gt;</li> <li>・各児童のテーマが丁度、知人が回答できそうなものだったので、コンタクトが取りやすいという利点を使っている。&lt; 1 &gt;</li> <li>・弘前市役所福祉総務課から車椅子を3台、弘前市社会福祉協議会から擬似体験セットを3セット借用して体験させた。&lt; 1 &gt;</li> <li>・教務の先生に手伝ってもらい、時数集計している。&lt; 1 &gt;</li> </ul>
指導の工夫< 7 >	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童とともに調べる活動をしている。&lt; 1 &gt;</li> <li>・少人数を生かした対応を行っている。&lt; 1 &gt;</li> <li>・調べ方の指導を行っている。（本・事典・インターネット）&lt; 1 &gt;</li> <li>・技量に合った資料を用意したり方法を示したりしてやりたいこととやれることが一致するように考えた。&lt; 1 &gt;</li> <li>・全体で行う内容、学年で行う内容と形態を工夫した。&lt; 1 &gt;</li> <li>・グループ学習をすることで効率化を図った。&lt; 1 &gt;</li> <li>・計画を早めに立て3ヶ月ぐらいの余裕を考えて計画を進める。&lt; 1 &gt;</li> </ul>
情報等の利用< 2 >	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料集め等は、インターネットや電話のかけ方を指導して、関係の人達に問い合わせるなどした。&lt; 1 &gt;</li> <li>・一つ一つの語句をかみくだいて説明したり、意味を考えさせるなどした、子ども向けのサイトなどを利用すべきであった。&lt; 1 &gt;</li> </ul>

その他< 3 >	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保存の方法を考えた。学校の年間計画に合う作物を作った。&lt; 1 &gt;</li> <li>・交通機関を利用する機会が少ないので、社会体験学習という事で、総合見学の時に、それぞれの目的地まで行き方を自分たちで考えさせた。&lt; 1 &gt;</li> <li>・学校全体で取り組む課題を設定するようにする。&lt; 1 &gt;</li> </ul>
----------	--

表3は、「実践上の問題点を解決するための工夫」である。「時間的、人材的な面、物的な面での工夫」では、父母や地域の協力を得ながら活動を進めていることがわかる。父母や地域の協力を得ることは活動範囲が広がるとともに、新しい知識や技能を獲得するので活動を活発化させることにつながる。また、学校の中で、学級担任以外の教師の協力を得ている学校もある。「連絡を密にして対応している」との記述も見られるが、連絡をきちんとして共通理解を図っていくことが活動する上にも大切なことである。物的な面では、市役所や社会福祉協議会等から必要なものを借用するなどして学習を行っていることが分かる。体験学習には、不足しているものを借用することも一つの方法と思われる。

「指導の工夫」では、教師と児童が一緒になって調べる活動を行うことで、支援の工夫をしていることがわかる。また、全体で行う内容、学年で行う内容を分けることや学習の形態を変えることで工夫している例もある。西目屋小ではグループ学習を取り入れることで学習の効率化を図っている。また、個人差などに対応するために調べ方の指導を行い、学習の仕方を理解させているところもある。また、計画を早めに立てて計画を進めることで効率化を図っている学校もある。

「情報等の利用」では、資料集めは、インターネットの利用や関係者から直接聞く等の方法を取りながら学習を工夫しているところもあった。

「その他」では、学校全体で取り組む課題を設定して教師の共通理解を図りながら学習を進めている学校があった。また、普段児童が体験しにくい活動を自分たちで計画させ総合の学習を行っているところも見られた。

### 3-4 総合的な学習の時間以外の教科等の時間で苦勞している点

表4 総合的な学習の時間以外の教科等の時間で苦勞している点

項 目	苦勞している点
複式についての苦勞< 4 >	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数とはいえ、ひとりひとりの能力差や作業時間の開きは大きい。しかも、複式である。個に応じてはいるものの教材準備等には、時間がかかる。&lt; 1 &gt;</li> <li>・4・5年変則複式を担当していて、教材の研究、評価等、時間が不足している。&lt; 1 &gt;</li> <li>・複式学級であるため、時間の取り方、配分や無駄のない間接指導のあり方などが難しい。&lt; 1 &gt;</li> <li>・各学年の人数にばらつきがある。毎年、複式学級の組み合わせが異なり、複式における指導計画を変えざるを得ない。&lt; 1 &gt;</li> </ul>

教科の指導の苦労< 6 >	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科の授業が複式になると大変だと感じる。特に、実験が多い単元の時、どうしても片方の学年がおろそかになってしまう。一人でも学び続ける子どもを育てる事が複式では、特に必要で大切な事だと感じる。&lt; 3 &gt;</li> <li>・理科、社会の時間確保と内容理解を定着させること。&lt; 1 &gt;</li> <li>・体育で球技などの競技ができない。&lt; 1 &gt;</li> <li>・漢字の定着&lt; 1 &gt;</li> </ul>
地理的な面での苦労< 2 >	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に商店等がないので社会科等で探検するのが難しい。&lt; 1 &gt;</li> <li>・社会見学がなかなかできない。&lt; 1 &gt;</li> </ul>
少人数についての苦労< 2 >	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小5, 6年ともにひとりずつの学級なので、多種多様な考えが出にくいこと。また、教科に挑む力をどうつけるか。&lt; 1 &gt;</li> <li>・国語や算数で意見が広がらない。(1学年1人であると)&lt; 1 &gt;</li> </ul>
その他< 3 >	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上に向けての授業改善。&lt; 1 &gt;</li> <li>・一人一人に確実に基礎的・基本的なことを定着させること。&lt; 1 &gt;</li> <li>・子どもの学力を伸ばすために、子どもの実態に即した教材研究に試行錯誤している。&lt; 1 &gt;</li> </ul>

表4は、「総合的な学習の時間以外の教科等で時間で苦労している点」である。「複式の指導の仕方についての苦労」が挙げられている。4・5年の変則複式学級のやりにくさや授業における間接指導の仕方など複式独自の指導方法に苦労していることがわかる。毎年、学年の組み合わせが変わる学校もあり、とまどいもあるようである。また、少人数の割には個人差が大きいので、指導がしにくい面も指摘されている。

「教科についての苦労」では、理科の複式の授業の苦労が多いことがわかる。複式で理科の実験・観察を平行して行うのは大変であることがわかる。特に、実験では安全の面などを考えた場合、2つの実験を行うのは危険な場面が多いからである。その場合は、どうしても片方の学年に片寄った指導にならざるを得ないことがわかる。また、体育で人数が少ないために球技ができないことも挙げられている。理科では、2年間を見通し2つの学年を同内容で学習する同単元同内容指導（A・B年度方式）を行っている例もあるとともに、ペア学習やグループ学習を効果的に活用する方法もある<sup>5)</sup>。

「地理的な面」では、へき地・複式の学校は市街地から距離的に離れていることが多いとともに、学校の周辺にも公共施設が少ないことから、市街地まで出てくるのに苦労していることが分かる。

「少人数について」では、1学年1人であると多種多様な考えが出にくく、意見が広がらないことがあり指導において苦労があるようである。また、学級編成を経験したことのないへき地・複式校の児童は保育所からのつながりからお互いをよく知りつくしているために、逆に多様な考えが出にくい面が見られている。

「その他」では、教材研究に試行錯誤しているという苦労が見られていることや学力向上に向けての授業改善に努めていることなどが挙げられている。

#### 4 まとめ

へき地・複式校の「総合的な学習への取り組み内容」では、「地域・郷土」に関するものが最も多く、特色のある取り組みが見られている。「米づくり」や「りんごの学習」等体験活動を取り入れて年間を通した一連の活動を行っているところも多い。

「実践上の問題点」では、「人材・時間・物的な面」、「指導について」などが挙げられる。「人材・時間・物的な面」では、授業までの準備の時間や教師の教材研究時間

の不足、施設や資料が不十分であること、活動が多岐にわたる場合職員の数が不足していることなどが挙げられる。「指導について」では、少人数とはいえ複式のために細かな指導ができないことや個人差が大きいと一人一人の活動に合わせた適切な指導がしにくいことなどが挙げられる。

「問題点を解決するための工夫」として、「人材・時間・物的な面」での工夫としては、教師の協力や父兄や地域の人との協力を得るとともに連絡を密にしていることや物品を関係機関の協力を得ながら借用するなどして活動を活発にしている。「指導について」では、個人の力に合わせた資料の準備や調べ方の指導を行っていること。学習の内容を工夫したり、学習の形態を変えたりして個人を生かすように工夫している。また、計画を早めに立てて余裕をもって計画を進めている学校もある。

「教科等の時間で苦勞している点」では、「複式についての苦勞」の記述が見られた。毎年の複式学級の組み合わせの変化に対応しにくい点や個人差が大きく教材の準備に時間がかかることなどが挙げられている。「教科についての苦勞」でも、理科の指導で苦勞している面が見られている。

中南地区の学校で取り上げている「米づくり」や「りんご学習」では、地域素材を生かした学習であるが、外部講師との連絡がうまくいかないこと、指導者の人数が不足していることや準備のための時間が多くかかることなどが問題として取り上げられている。そのために、講師、地域の人や教師間の連携を深め工夫をしている。複式指導についての困難さを挙げているのは、経験年数が20年位になっている人と経験年数が1年位とに分かれる。20年位の人達は、単式学級での指導法の経験のある程度積んでから複式学級の担任となり、その違いに困難さを感じながらも指導している。経験年数が30年を超えると、複式の指導の仕方について自分の案を会議に提案している。

また、総合的な学習については、実践していく上で苦勞も見られるが、各学校でそれぞれ対応しながら特色ある活動を行っているともいえる。へき地の学校というと複式学級がある学校も多い。複式の指導法はなかなか容易なことではないが、効率的な学習の手順を踏まえた指導法を取り入れながらも、自校に合った授業改善の工夫していく必要がある。指導の仕方が定着してきたところで、へき地校以外の学校に転勤になるケースも多いが、児童一人一人を大切にしたい指導が重要と思われる。

## 5 おわりに

文部科学省は、ゆとり教育を見直し総合的な学習の時間を見直す意向を示しているの  
で総合的な学習の時間が削減される方向で進むことが考えられる。

青森県中南地区における、へき地・複式校の総合的な学習の時間についての教師のアンケートを見ると、授業についての苦勞を持ちながらも、父母や地域、学校の教師間で連携を取りながらも特色ある活動を営んでいることが分かる。総合的な学習の時間では、時間、人材、物的な面や複式学級がある学校は指導法など難しい面が見られる。今後もさらに、授業改善を図りながら実践を深めていく必要がある。「21世紀の教育はへき地から」ともいわれている、へき地の特性を生かしながら教育活動を積極的に営んでいくことが大切と思われる。また、青森県の他地区におけるへき地・複式校の苦勞や問題点を調べ、中南地区との類似点や相違点がないかを調べることも必要である。

### ＜引用文献＞

- 1) 全国へき地教育研究連盟(2004);全国へき地教育新聞, 第1036号.
- 2) 渋川良夫(2004);青森県中南地区の小学校教師を対象とした総合的な学習の時間の意識調査, 弘前大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, 2号, pp. 67-68.
- 3) 羽賀敏雄(2004);学生による地域への学校教育支援の可能性と実践的指導力の基礎, 弘前大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, 2号, pp. 101-102.
- 4) 羽賀敏雄(2004);学生による地域への学校教育支援の可能性と実践的指導力の基礎, 弘前大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, 2号, pp. 101-102.
- 5) 青森県教育委員会(1999);小学校複式学級の理科指導, 平成9・10年度指導資料第29集, pp. 74.

### ＜参考文献＞

- 1) 全国へき地教育研究連盟(2003);新しい時代を拓く心の教育シリーズⅠ,  
生きる力・確かな学力を育む教育の在り方, pp. 1-4
- 2) 南黒へき地・複式教育研究会(2003);南黒へき地・複式教育研究会研究紀要, 第18号,  
pp. 25-66.
- 3) 北海道へき地・複式教育研究連盟(2001);北海道小学校複式基底教育課程, pp. 95-112.
- 4) 全国へき地教育研究連盟(2000);21世紀を拓く教育シリーズⅢ, pp. 92-95.
- 5) 全国へき地教育研究連盟(1986);へき地教育双書Ⅰ へき地・小規模・複式学級の  
特性を生かした学校・学級経営, pp. 107-116.
- 6) 全国へき地教育研究連盟(1995);これだけは知っておきたい へき地教育ガイドブック,  
pp. 113-120.
- 7) 全国へき地教育研究連盟(1998);学習指導方法の工夫・改善, pp. 25-31.

## &lt;表1&gt;

## 「総合的な学習の時間」についてのアンケート

学校名（ ）小学校

ご記入された方（○で囲んで下さい）

&lt;年 代&gt; 20代 30代 40代 50代

&lt;経験年数&gt; 年

&lt;職 名&gt; 校長 教頭 教諭 養護教諭 その他

## 〔質 問 項 目〕

質問1 あなたが、今年度担当した総合的な学習の時間の内容と日程について、ご記入下さい。  
 （もし、資料がございましたらコピーされたものを添付されても構いません。）

月	内 容

質問2 あなたが今年度担当した「総合的な学習の時間」で、大変である（苦勞している、悩んでいる）と感じたことについて、ご自由にお書き下さい。

質問3 「質問2」で回答いただいたことを解決するために、あなたが工夫されていること（あるいは実際には行わなかったが、そうしたらよいと思うようなこと）などがありましたら、ご自由にご記入下さい。

質問4 あなたが今年度担当した総合的な学習の時間以外の教科の時間で、大変である（苦勞している、悩んでいる）と感じたことについて、ご自由にご記入下さい。